

# ドイツスポーツクラブの現状（1994年）

森 喬夫

## Present situation of sports club in FRG

Takao MORI

### Abstract

The historical development process of a sports club in the Federal Republic of Germany (FRG) is reviewed.

This author had a chance to visit FRG in 1994, and investigated the organization, management and leader training system of FRG Sports Union (Deutsche Sportbund) and sports club at Nieder-Olm, the population of the village being about 10,000.

The sports club in FRG was established by W. Benecke, a merchant and pupil of F. L. Jahn (what might be called a father of gymnastics) in Hamburg in 1816. Then, it has developed for 180 years. At present, the sports club became popular and penetrated into the people of FRG like a part of the society on daily basis.

In Japan, a sports club has become popular rapidly since the Tokyo Olympic Game in 1964. This development is affected intensively by that in European countries and U. S. A., especially FRG. Further the development of the club will be expected in very near future in Japan with the increase of health minded people. The above made clear from this investigation.

Key words : Sports club in FRG, FRG Sports Union, Sports club at Nieder-Olm

キーワード：ドイツスポーツクラブ，ドイツスポーツ連盟，ニーダーホルムスポーツクラブ

### はじめに

1964年（昭和39年）東京オリンピックを境に、我が国でも民間型スポーツクラブが普及してきた。

昭和40年代前半はスポーツクラブの創設期として暗中模索の時代であり、体操、テニス、水泳に始まり、ジャズダンス、エアロビクス、マシントレーニング等、多種多様な運動、スポーツがブームを呼び、スポーツ産業が一躍クローズアップされ今日に至っている。

我が国のスポーツ活動は従来「学校体育及び学校の放課後におけるクラブ活動」「職場のスポー

ツ活動」「地域公共スポーツ施設を利用した同好のスポーツ活動」を中心に行われて来た。就学前の低年齢者、主婦、あるいは高齢者のスポーツ活動はさほど活発に行なわれていなかったのが実状である。しかし近年スポーツクラブの目覚ましい普及・発展により、スポーツ年齢層にも幅が出て来るようになった。

我が国スポーツ界の隆盛が今日あるのは欧米諸国の影響に負うところが大きい。特に公共スポーツクラブ、民間のスポーツクラブにおいては、ドイツのスポーツクラブの組織、運営、指導者養成の面で多大な影響を受けて来ている。そのドイ

ツのスポーツクラブについての歴史的背景、現状、動向を探ってみることにした。

調査の対象は、ドイツのあらゆるスポーツ関係団体の統括団体でスポーツクラブの頂点に立つ「ドイツスポーツ連盟」と、その末端にある「1地方スポーツクラブ」にスポットを当て考察することにした。

### スポーツクラブの歴史的背景

19世紀初頭、ドイツ国民はナポレオンの支配下にあり、屈辱的な生活を強いられていた。1811年、F. L. ヤーン（1778-1852年）は、青少年に勇気と力を与え、国威高揚を目指す意図のもと、ベルリン郊外のハーゼンハイデの地に Turnplatz（体操広場）を創設し、そこで、Turnen（木馬、平行棒、水平棒等、今日の器械体操に発展の器具を中心とした身体活動）を考案し、普及・育成を図った。

1816年9月2日、ヤーンの弟子である商人、W. ベネッケが友人、G. ニコライとハンブルグに体操クラブを創ったのが、今日のスポーツクラブの始まりであり、Hamburger Turnerschaft von 1816 e. v（1816年創立ハンブルグ体操協会）の名称で現存している。

ヤーンのTurnenが全国的に普及しつつあった矢先、ヤーンの青少年に与える思想は危険であるとみなされ、1822年、Turnsperre（体操禁止令）が発令され、その後1842年の体操禁止令解除まで、表立った身体活動は行われなかった。禁止令解除後の1842年以降は堰を切ったように Turnverein（体操クラブ）が各地に出来、1868年には、Deutsche Turnerschaft（ドイツ体操協会）が設立され、1871年当時、約1500の体操クラブが加盟登録し、約13万人の会員を擁していた。

体操クラブが各地に創られているのと時を同じくして、イギリス、フランスのスポーツ種目が多種輸入され、各地に、ボートクラブ、ヨットクラブ、フェンシングクラブ、テニスクラブ等、の単一種目のスポーツクラブが設立され、1886年 水泳連盟、1888年 ヨット連盟、1898年 陸上競技連盟が組織された。しかしドイツ体操協会はイギリス、フランスから入って来たスポーツに対して

拒否反応を示した。その理由はヤーンの創った Turnenこそ真の身体活動であるというナショナルリズム的思想と、敵国であったイギリス、フランスのスポーツを受け入れたくないという反発からであった。この二つの対立も1920年代まで続いたが、1936年ドイツ体操連盟が自主解散することにより終決を迎える。

1933年、1月30日、ヒトラーが首相となり、ナチスがドイツを支配することにより、これまで民間の手で行われていた体育・スポーツ活動が国組織で育成されるようになった。1936年、12月1日「ヒトラー・ユーゲント法」が制定され、10～18才までのすべての青少年は奉仕活動、スポーツ活動を義務づけられ、ナチス国家への愛国心と忠誠心を植えつけられて行くようになった。

1945年、第二次世界大戦後、不幸にして東西ドイツに分割される憂き目にあったが、戦後の復興も目覚ましく、スポーツ界でも1950年12月10日ハノーバー市でDeutsche Sportbund（ドイツスポーツ連盟、略してDSB）が創設され、各体操クラブ、スポーツクラブが加盟登録する運びとなった。その後、DSBの本部もフランクフルトに移され、又、1990年には東西ドイツが統合され、DSBの果たす役割がドイツスポーツ界にとって益々重要になって来ている。

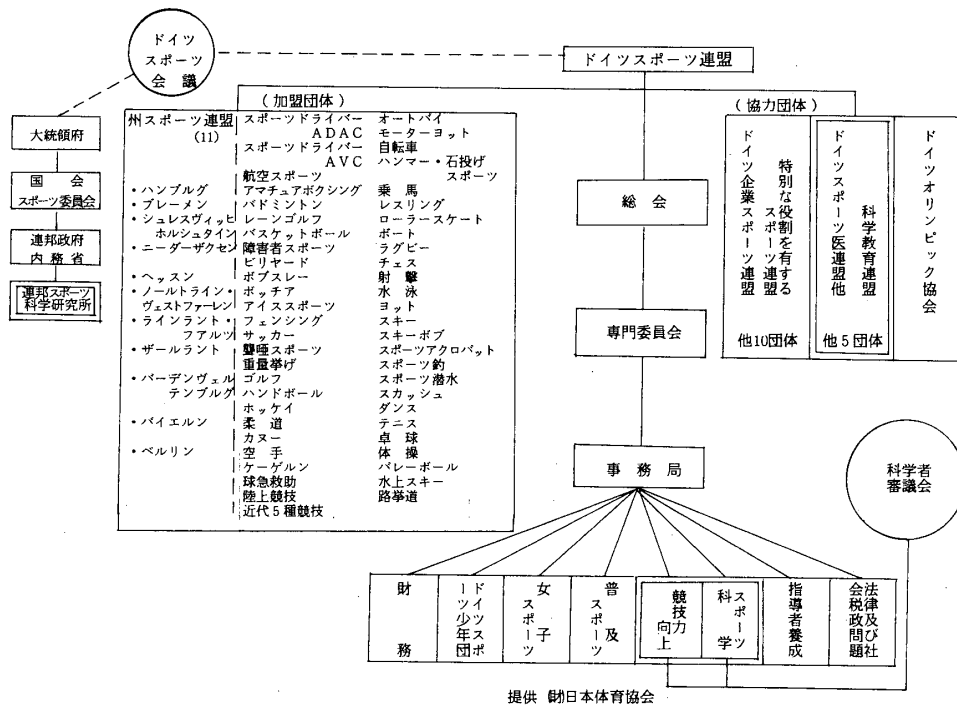
## 1. ドイツスポーツ連盟

### 1) ドイツスポーツ連盟の組織図

各スポーツクラブは、市町村スポーツ連盟に加盟し、併せて各競技団体にも登録する仕組みになっている。ドイツスポーツ連盟はドイツのあらゆるスポーツ関係団体の統轄団体であり、その役割は、Spitzen Sport（チャンピオンスポーツ）の育成から、「第二の道」、「トリム運動」「みんなのスポーツ」のBreiten Sport（大衆スポーツ）の普及事業にも力を注いでいる。

### 2) ドイツスポーツ連盟加盟のスポーツクラブ数・会員数

東西ドイツ統一後のドイツスポーツ連盟に加盟しているスポーツクラブは、1993年現在で81,071クラブである。クラブ会員総数は2,437



(注) 1993年の調査によると競技種目加盟団体はアマチュアフットボール、野球ソフトボール、柔術の3団体が新規に加盟している。

図1 ドイツスポーツ連盟関連図

表1 ドイツスポーツ連盟加盟の会員数、クラブ数、スポーツバッジ認定数の推移

西暦	会員数	スポーツ人口(%)	クラブ数	スポーツバッジ認定者数
1950	3,204,005	6.7	19,874	-
1951	3,368,220	6.9	20,824	-
1952	3,607,905	7.1	22,075	29,901
1953	3,736,397	7.2	22,680	28,431
1954	3,739,838	7.3	23,073	29,317
1955	3,848,859	8.2	23,947	36,927
1956	4,356,562	8.2	24,320	39,654
1957	4,615,868	8.6	26,116	47,270
1958	4,836,878	8.9	27,511	59,154
1959	5,130,522	9.5	29,025	82,079
1960	5,267,627	9.5	29,486	70,793
1961	5,497,763	9.8	30,758	75,341
1962	5,693,368	10.1	31,537	74,446
1963	5,903,736	10.3	32,115	92,740
1964	6,190,094	10.8	33,273	149,729
1965	6,831,980	11.7	34,441	147,968
1966	7,698,812	13.1	35,567	192,344
1967	8,235,118	13.9	36,362	221,366
1968	8,940,957	15.0	37,391	206,385
1969	9,555,270	16.0	38,284	271,346
1970	10,121,546	16.7	39,201	271,361
1971	10,794,018	17.6	39,827	311,394
1972	11,497,123	19.0	40,938	323,122
1973	12,152,345	19.8	41,463	344,411
1974	12,836,302	20.8	42,785	332,423
1975	13,449,905	21.0	44,373	434,451
1976	14,194,344	22.0	45,518	480,642
1977	14,712,573	23.0	46,946	553,115
1978	15,780,582	25.7	48,380	553,695
1979	16,518,785	26.9	50,739	605,107
1980	16,924,027	27.6	53,451	587,993
1981	17,658,020	28.7	58,937	598,859
1982	17,980,292	29.2	59,871	629,829
1983	18,375,270	29.78	58,091	677,001
1984	18,940,122	30.77	59,717	663,491
1985	19,258,583	31.41	61,514	704,685
1986	19,588,607	31.95	62,930	701,529
1987	20,043,290	32.85	64,251	699,270
1988	20,498,190	33.53	65,643	818,622
1989	20,965,422	34.33	66,652	761,159
※ 1990	23,777,378	30.07	74,802	691,090
1991	23,181,197	29.30	77,895	-
1992	23,651,350	29.78	79,434	-
1993	24,372,316	30.56	81,071	-

※ 1990年以降は、東西ドイツ統合

万余人で1クラブ平均会員数は300人であり、我が国の地域スポーツクラブの平均会員数（34人）の約9倍となっている。

1950年以降1993年までの会員数等の推移を示した表である。

会員数、スポーツ人口、クラブ数、ともに年々増加の一途を辿っている。1990年東西ドイツの合併により、それ以降のスポーツ人口が減少している。これは、旧西ドイツに比べ旧東ドイツのスポーツクラブに参加する会員数の少なさを物語っている。旧東ドイツでは過去に、競技スポーツとして世界的に優れた選手を沢山輩出してきたが、生涯スポーツとしての底辺層のスポーツ参加者の立ち遅れが、数字から窺い知ることが出来る

### 3) スポーツクラブ競技別会員数の推移

スポーツクラブの種目別会員数のベスト10を1965年、1982年、1993年の3回で比較して見た。これによると、サッカーが国民的スポーツとし

て圧倒的な人気を得ていることが分かる。体操（幼児・児童体操、婦人体操、中高年者の体操、ジャズ体操、リズム体操、器械体操、新体操等含む）も層の厚いスポーツであることがわかる。また、テニス人口が増加している反面、5位以下のスポーツ種目は伸び率が芳しくない。射撃の会員数が安定しているのは徴兵制の関係で、成人男子の会員が多いためと推定される。我が国で人気のある野球については近年ドイツスポーツ連盟に加盟したばかりで、まだ会員数は11,344名で、今後の上昇率に興味をもたれるところである。

### 4) バジテスト合格ライン表

#### (1) 成人（男・女）

最初のテストに合格すると銅バッジ、3回同種目をクリアすると銀バッジ、5回クリアすると金バッジが与えられる。金バッジ10個、15個、20個、25個と増えるごとに特別表彰される。

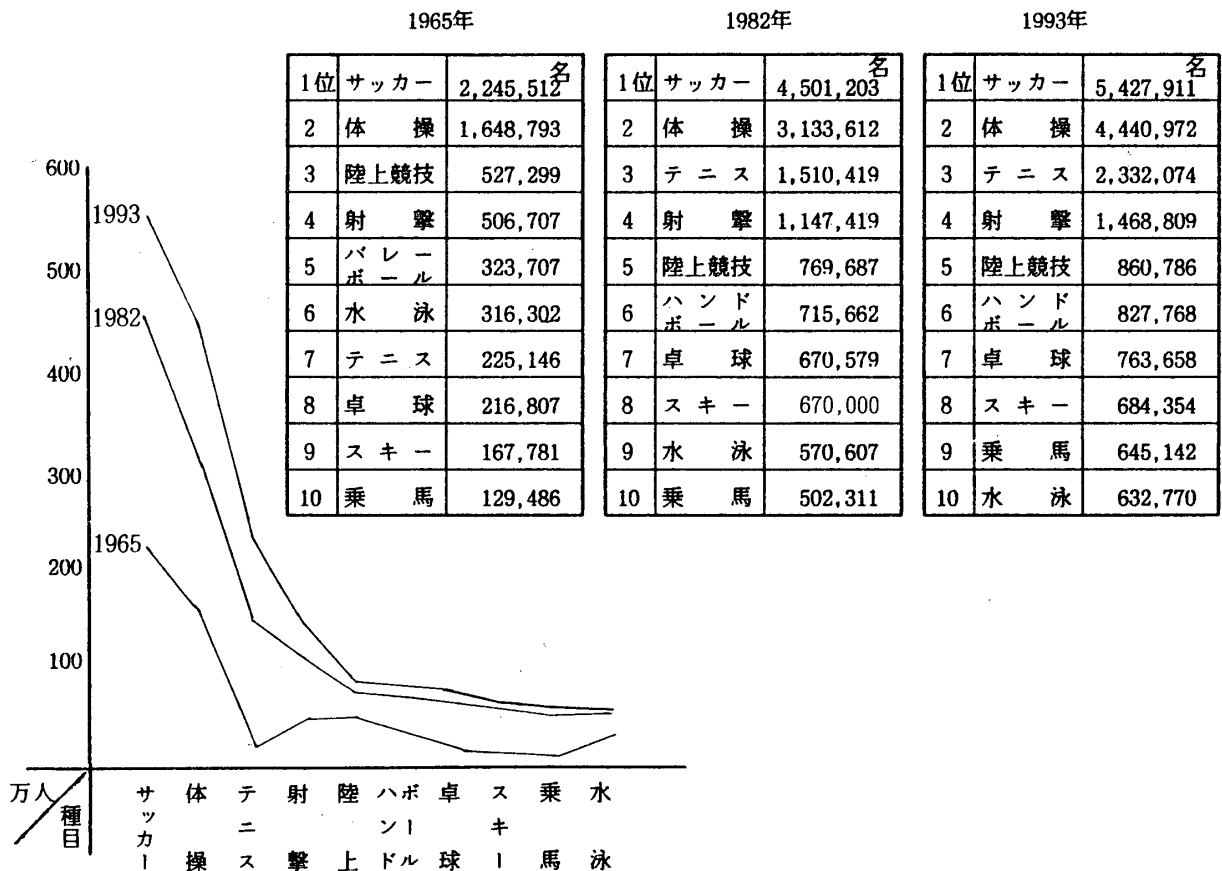


図2 スポーツクラブ競技別会員数の推移



(2) 少年・少女、小学生

13歳から17歳までの少年・少女は、ドイツ少年スポーツ称号のバッジが得られ、8～12歳までの生徒はドイツ学校スポーツ称号のバッジが得られる。最初のテストでは銅バッジ、2回目のテストで銀バッジ、3回目のテスト合格で金バッジが与えられる。金バッジが5個になると、特別にデザインされた金バッジが与えられる。

各スポーツクラブでは会員が自発的にバッジテストに挑戦し、バッジを多く集める事がスポーツを行う者にとって誇りとされている。

我が国ではあまりみられないテスト種目に、成人男女の「木馬」、「マット運動」がみられる。ヤーンが体操クラブを創設した頃からの名残であろう。又、「石投げ」もヨーロッパでは古くから行われているスポーツ種目の1つである。

5) スポーツ指導者養成

(1) スポーツ指導者の種類と指導内容

① C級コーチ

特定の種目についての基礎的指導、競技力向上へと導く。

② B級コーチ

特定の種目についての専門的指導、競技力向上のための優秀な選手の発掘。

③ A級コーチ

特定の種目について体系的に競技力向上の指導を行い、各個人の高度な技術指導を行う。

④ ディプロムコーチ

国際級選手のトレーニングの計画、実施、評価。実技指導者やコーチに対する指導、助言を行う。

⑤ 種目別実技指導者

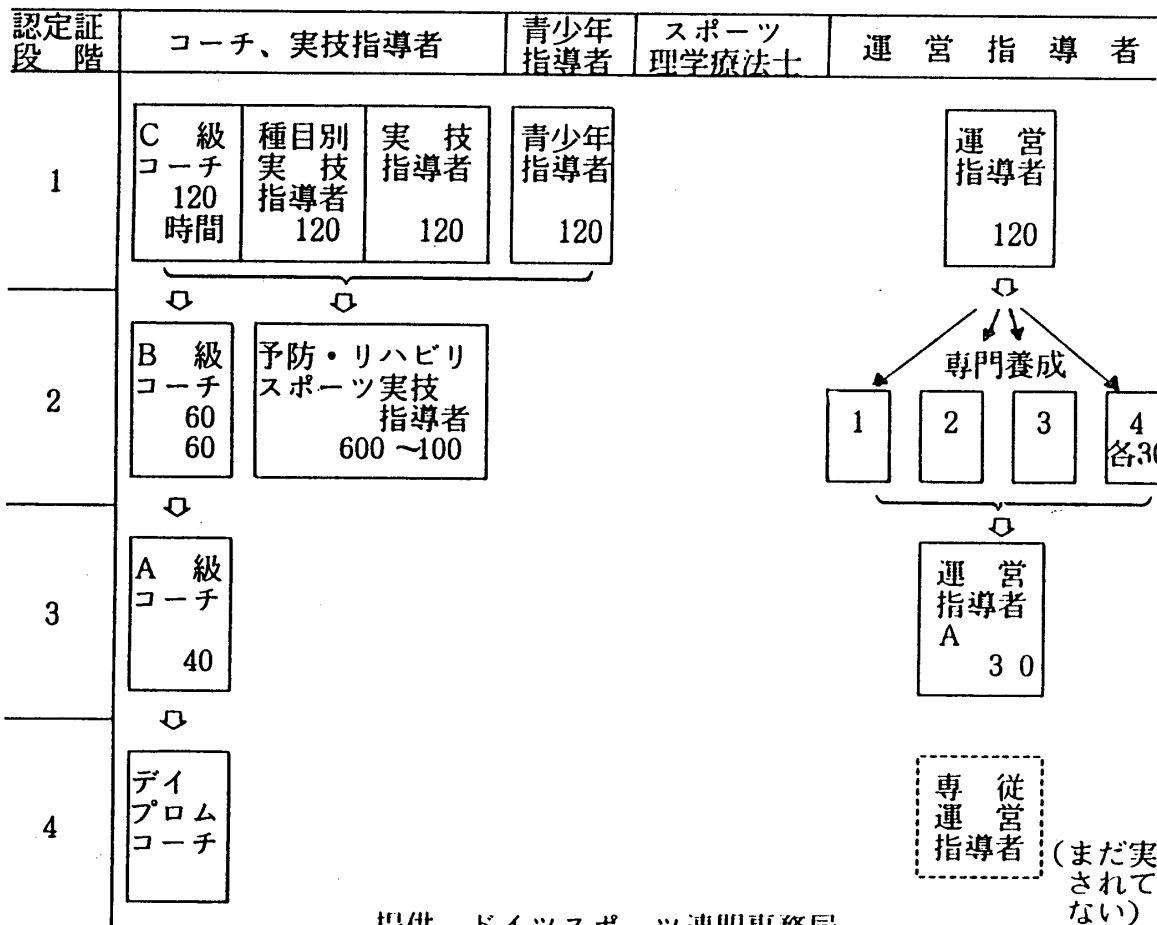


図3 スポーツ指導者養成組織図

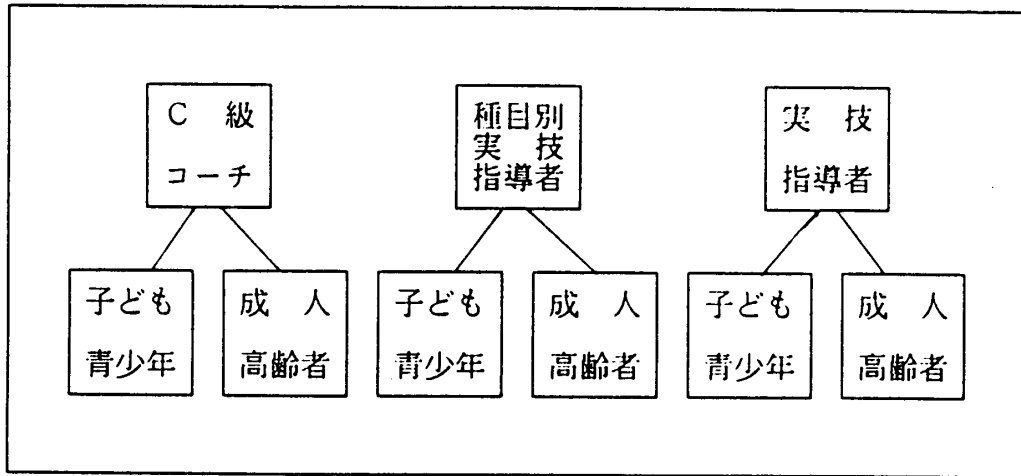


図4

認定証 段階	運 営 指 導 者					
1	共 通 テ ー マ					30 単 位 時 間
	A	a	b			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現代的なスポーツクラブ</li> <li>○ スポーツ連盟</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ スポーツクラブ</li> <li>○ スポーツ団体の幹部指導者</li> </ul>			
	専 門 テ ー マ					90 単 位 時 間
B	a	b	c	d	e	
	指導の基礎 指導トレー ニング	マーケティング クラブと運 営組織	クラブ法の 基礎	財政、税金 保険	広報、宣伝 催し物の企 画と運営	

図5

特定の種目について基礎的指導を行い、生涯スポーツ活動の推進を図る。各スポーツ種目で、初歩的な運動プログラムを提供する。

⑥ 実技指導者

スポーツ種目全般の基本的運動プログラムを提供し、生涯スポーツの推進を図る。

⑦ 予防、リハビリテーションスポーツ実技指導者

身体障害者などの特別なトレーニングや練習プログラムのため、運動セラピー的方法と処置を行う。

⑧ 青少年指導者

生涯スポーツ、余暇スポーツにおいて青

少年に適したプログラム作りと実施、並びに余暇教育、青少年施策についてのスポーツ以外の催し者とプログラム作りとそれらの実施。

⑨ スポーツ理学療法士

エリートスポーツ選手に対し治療を施したり、海外遠征、競技会に随行し、治療に当る。

⑩ 運営指導者

スポーツクラブの運営管理の仕事に携わる。

⑪ 運営指導者（専門養成1-4）

専門養成1. スポーツクラブにおいて指導と法律の仕事に携わる。

専門養成2. スポーツクラブにおける企画と運営に携わる。

専門養成3. スポーツクラブにおける財政、税金、保険に携わる。

専門養成4. スポーツクラブにおける広報活動、宣伝及びマーケティングに携わる。

⑫ 運営指導者A

スポーツクラブ及びスポーツ関係団体の首脳的分野で総括、指導、運営管理を行う。

(2) 認定証の有効期間

交付の日付をもって発効し、有効期間の最後の年の12月31日をもって失効する。

① 4年間有効認定証

コーチC、種目別実技指導者、実技指導者、青少年指導者、予防とリハビリテーションスポーツ実技指導者、運営指導者A、スポーツ理学療法士。

② 3年間有効認定証

コーチB

③ 2年間有効認定証

コーチA

急速なスポーツクラブ数の増加、会員数の増加にともない、ボランティアの指導者だけではクラブ運営が賅いきれなくなってきた。

そこでドイツスポーツ連盟は1966年、指導者の試験、講習会、報酬に関する基本的統一見解を作成し、指導者養成の実施を開始した。1974

年にはコーチに関する骨子ならびに運営指導者の養成に携わる講習、試験、報酬の統一を図った。ドイツ国内70の講習会場で短期コース、長期コース、週末コースと様々な方法で指導者養成を行い、今日まで50万人の資格認定者を出している。我が国でも1987年以降、文部省、厚生省、労働省の各省で社会体育指導者の資格認定制度を導入しているが、受講時間の免除措置、登録料、受講料の問題及び講習内容が似通っている点など、今後各省の話し合い、歩み寄りが必要と思われる。我が国において、スポーツ指導者の社会的地位が確保されるには今後もう少しばかりの時間を待たねばならないだろう。しかし、ドイツでは指導者養成が着々と成果を上げてきている。その理由として下記の事が挙げられる。

① 指導者養成の資格認定制度がドイツスポーツ連盟一本に絞られている。

② 資格認定者はドイツ国内のどのクラブにおいても就職可能である。

③ 指導者への報酬が統一されている。

④ 指導者の大半は主職業を別に持っており、指導料収入を生活の糧としない。従ってクラブ側のメリットとして非常勤で採用でき、出費が少なく済む。

6) 生涯スポーツ拡大のキャンペーン活動

ドイツスポーツ連盟は1960年、Zweiter Weg（第二の道）と云う言葉を打ち出した。仮にErster Weg（第一の道）が、競技志向の限られたエリートスポーツと呼ぶならば、「第二の道」は、より多くの人達がスポーツクラブ会員となり、スポーツで汗を流してもらおうスポーツ底辺拡大がその大きな目的であった。ドイツスポーツ連盟が提唱した「親子体操」「幼児体操」「高齢者の体操」等が各スポーツクラブで盛んに行われ会員数の増加に繋がって行くようになった。

1970年になると従来のスポーツクラブ会員以外の人達への呼びかけ、あるいはスポーツからしばらく遠ざかっていた人達を対象とした呼びかけとしてTrimm（トリム）運動が積極的に行われるようになった。



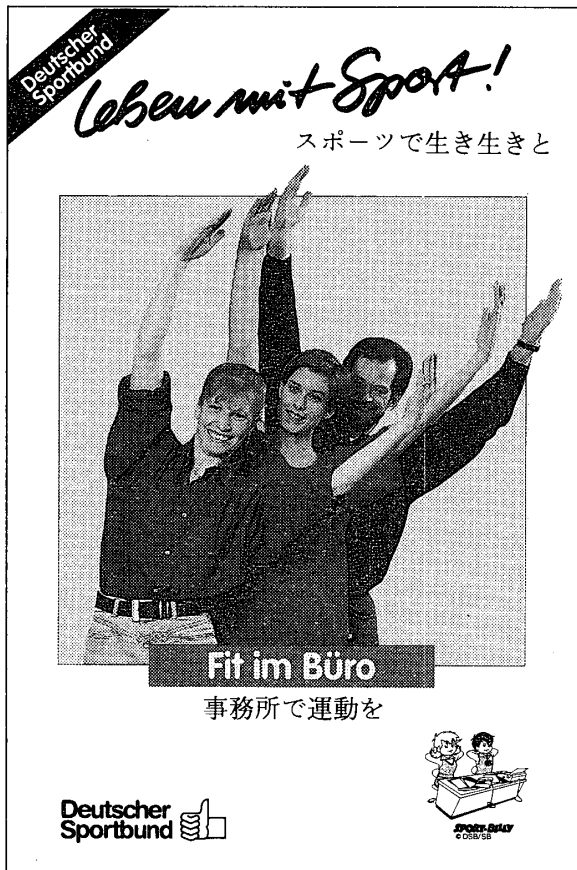


写真1 キャンペーン活動

Lauf mal wieder! (もう一度走ろう)  
 Turn mal wieder! (もう一度体操しよう)  
 等のテーマで、新聞・雑誌・テレビなどのあらゆる媒体を通じて広報活動が行われた。呼びかけのテーマも年ごとに少しずつ変化して来ている。1975年以降は、Trimm Trab (ジョギング) をテーマにした内容が多くなっている。又、スポーツ選手・俳優・政治家等の知名度の高い人が、ランニング、あるいは水泳をしているポスターも宣伝の一役を買っている。1978年に入ると、Spiel (遊戯) をテーマにした内容が多く、例えば、「休暇中の海や山で遊戯しよう」とか、「トリム遊戯小辞典」と称して簡単なゲームを図解入りで紹介した小雑誌・ポスターなどが目につく。これ等、一連のトリム宣伝により1974年の調査では、国民の90%以上がトリム運動を認識し、20%がトリムするようになったと発表されている。1960年以降始まった「第二の道」あるいは「トリム運動」「みんなのスポーツ」の宣伝活動により、国民の一人一人の中にスポー



写真2 キャンペーン活動

ツはある特定の人達の為だけではなく、自分達皆が楽しみながら行うものであると云う自覚が目覚め出して来ている。これは取りも直さず、ドイツスポーツ連盟のキャンペーン活動が年々効果を上げて来ていることに他ならない。

## 2. ニーダーオルムスポーツクラブ

ドイツでは「民法」に「クラブ法」が定められており、会員数7名をもってクラブを設立するこ

とができる。クラブ登録が許可されると Eingeträger Verein（登録クラブ）の称号が与えられる。

ニーダーオルムとは村の名称である。フランクフルトから約40km離れた位置にあり、周囲はワイン畑に囲まれた風光明媚な人口1万人の小さな村である。登録クラブとしてドイツスポーツ連盟に加盟しているニーダーオルムスポーツクラブに調査の的をしぼってみた。

ニーダーオルムスポーツクラブは1893年6月24日に創立した100年以上の伝統あるスポーツクラブである。しかしドイツではまだまだ古い歴史のあるクラブは沢山ある。1993年のドイツスポーツ連盟のクラブ調査では、登録クラブ数が81,071クラブ。ニーダーオルムスポーツクラブの登録番号は1,161番となっている。

クラブには会則があり、会員は会則に基づいて活動している。クラブの目的では、「会員が十分に満足できるスポーツ活動の振興と育成を図ること」を第1に謳っている。また「クラブは公益法人であり、営利を求めることは許されない。」「会員はボランティアとして働き、クラブから贈与、過度な報酬を受けることは許されない」と会則の

第1条の項文で明示されている。クラブによっては独自でスポーツ施設を作り所有しているところもあるが、大半は地方自治体所有のスポーツ施設、小・中・高等学校のスポーツ施設を無料で借用しているのが実状である。ニーダーオルムスポーツクラブも以前は、独自の体育館を所有していたが維持費がかかるので売却し、現在では地方自治体並びに学校の施設を借用してスポーツ活動をしている。クラブ運営は、ほとんど会費収入で賄っている。自前の体育館を持っているクラブは、レストランの売上げ収入、競技会の開催、バザー、その他各種催し物の開催などの副収入も見込まれる。

### 1) 登録名称及び登録番号

#### (1) 名称

「ニーダーオルムスポーツクラブ1893年」

#### (2) クラブ登録番号 1,161番

### 2) 所在地

ニーダーオルム

### 3) 会員数

少年・少女 534名

成人 814名

家族会員 386名（108家族）



写真3 体育館

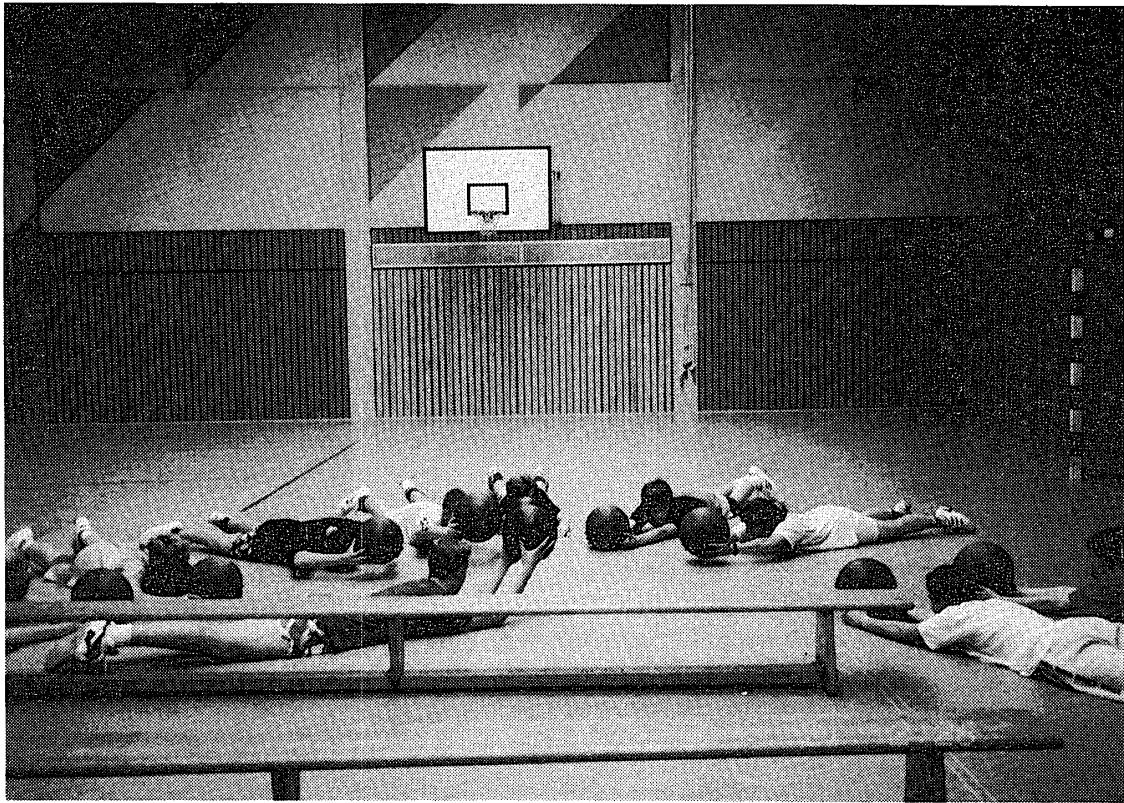


写真4 メディシンボールでトレーニングする少年達

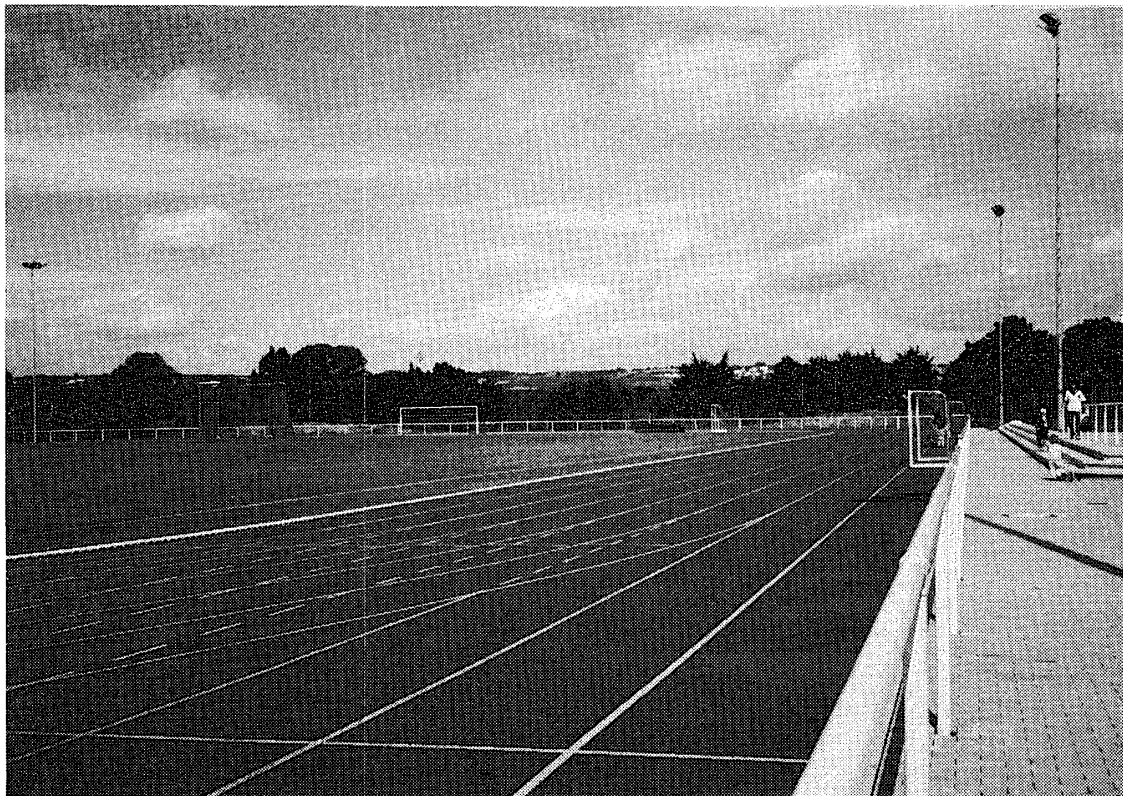


写真5 陸上競技場兼サッカーコート

ドイツスポーツクラブの現状 (1994年)

- 計 1,734名
- 4) 月会費 ( ) は1994年7月より値上げ
- 少年少女  
7マルク→(9マルク・585円)
- 成人  
10マルク→(13マルク・845円)
- 家族会員(3名以上)  
24マルク→(27マルク・1,755円)
- (注) 1マルク=65円(1994年8月現在) 値上がりしても日本と比べてかなり安い。

5) 指導員

- (1) 専任指導者 1名

シュバンツ・アネグレット嬢 24歳

専門種目	}	スキー(ドイツスキー連盟のライセンス所有)
		陸上競技 100m 11秒92 ( 走り幅跳 6m12
		器械体操
		水泳、マシントレーニング

すべてのスポーツ種目に万能の指導者である。マインツ大学で体育専攻のディプロム教師の資格所有。

月額給料、1,950マルク(約126,750円)フリーの時間を利用して副業として新聞広告などからコンピュータ・グラフィックスを依頼される。この方が月によってはクラブでの指導収入を上回ることもある。

指導時間

月	15:00~19:00	}	各スポーツ種目のコン ディショニングトレ ニングの指導が主		
火	20:00~22:00				
水	15:00~21:00				
木	15:00~21:00				
金	}	}			
土				}	}
日					

専任指導者は彼女一人のみで、他はすべて非常勤の種目別の実技指導者である。指導料は認定証のランクによって異なるが、認定証段階1の実技指導者で、1時間=10マルク(650円)程度である。

- (2) スポーツ種目と指導者数

体操	21名
ハンドボール	22名
プレルボール	2名
水泳	5名
陸上競技	5名
スキー	2名
柔道・柔術	10名
バドミントン	8名
自転車	2名
バレーボール	4名

計81名

6) 運営組織

- (1) 理事(36名)

① 運営理事

理事長	1名
理事	3名
会計	2名
庶務	3名
広報	1名

② 顧問 6名

③ スポーツ種目、部長、副部長 20名  
理事は、名誉職で、すべての仕事は無報酬である。

7) 会員資格

申請に基づき、各スポーツ種目の部長の承諾により入会が決定する。スポーツクラブの会員は少年、少女会員、成人会員、名誉会員で構成される。名誉会員や名誉会長は理事から提案され、会員総会で決定する。彼等は会費を免除され、名誉会長は理事の肩書きを与えられる。

会員資格は死亡、解約、除名で終了する。除名は(1)6ヶ月以上会費を滞納した場合、(2)クラブの規則を守らず違反した時、(3)クラブの名誉が著しく傷つけられたり、損害を蒙ったりした時に書面で通知される。除名を通知された者は会員総会で控訴する権限は与えられる。

8) 会員総会

会員総会はクラブの最高議決機関であり、会員の中から理事長、運営理事を選ぶ。正規の会員総会は、年度開始後3ヶ月以内に開催され、必要に応じて臨時会員総会がもたれる。会員総

会の日程、議題はあらかじめ開催される日の14日前までに公的掲示板に発表される。会員総会の出席は14歳以上の会員とし、14歳に満たない者は法的代理人が代わりに出席する。14歳に満たない者でも希望があれば、議長の同意で傍聴参加は許される。投票権は18歳以上の会員に与えられる。

9) 理事

理事は名誉職で、任期は2年間、但し、運営理事は3年間である。顧問は5名以上を置く。各競技団体は代表者として部長、副部長を選出し、会員総会で承認される。

10) 新規のスポーツ種目を設立する場合

活動する場所、財政面、発起人を明記し、申

請後理事過半数以上の賛成をもって設立が許可される。

11) 施設

スポーツ施設はすべてニーダーホルムの公共スポーツ施設及び学校のスポーツ施設を借用している。

- (1) 体育館 大体育館…2  
小体育館…3
- (2) プール 室内50mプール…1  
屋外50mプール…1
- (3) 陸上競技場…1
- (4) サッカー場…2

12) 活動プログラム(資料1、資料2参照)

資料1 ニーダーホルムスポーツクラブ活動プログラム

スポーツ種目	年齢及び対象者	開設曜日と時間	
		曜日	時間
プレルボール	10才～ 男	月曜日	18時～19時30分
バレーボール	13才～ 男・女 成人 男・女	火曜日	20時～21時
体操	成人 男・女	火曜日	20時～21時
スキー体操	成人 男・女	火曜日	21時～22時30分
ジョギングと体操	成人 男・女	火曜日	21時～22時30分
体操(器具、音楽なし)	高齢者 女	水曜日	16時～17時
バドミントン	成人 男・女	水曜日	18時～19時30分 19時30分～20時30分
体操(コンディショニングと音楽体操)	フリー	水曜日	20時～21時
エアロビック	〃	水曜日	20時～21時
ジャズ体操	〃	水曜日	20時30分～22時
みんなのスポーツ (パートナー体操及び遊戯)	〃	水曜日	20時30分～21時30分
自転車(夏期間のみ)	〃	水曜日	18時30分～
太極拳	〃	木曜日	16時～17時
スキートレーニング	〃	木曜日	20時～21時30分
ジョギング(夏期間)	〃	金曜日	19時30分～
ジョギング(冬期間)	〃	土曜日	16時～

ドイツスポーツクラブの現状 (1994年)

資料2 ニーダーオルムスポーツクラブ子供の活動プログラム

スポーツ種目	年齢及び対象	開設曜日と時間	
		曜 日	時 間
体 操	親と子	月曜日	16時 ~17時
	3才~	月曜日	16時 ~17時
	6才~ 男	月曜日	15時 ~16時
	8才~ 女	月曜日	15時 ~16時30分
	6才~ 女	火曜日	15時30分~16時30分
	10才~ 女	月曜日	17時 ~18時30分
ジャズダンス	13才~17才 女	火曜日	16時 ~20時
バドミントン	13才~17才 男	水曜日	18時 ~20時
		金曜日	16時30分~18時
ハンドボール	8才 男	火曜日	15時 ~16時30分
	9才~10才 男	水曜日	16時30分~18時
	11才~12才 男	月・金曜日	17時30分~19時
	13才~14才 男	木・金曜日	17時 ~18時30分
	15才~16才 男	火・木曜日	16時30分~18時
	Aチーム 男	月曜日	18時 ~19時30分
	17才~19才 男	木曜日	18時 ~19時30分
	10才 女	水曜日	15時 ~16時30分
	11才~13才 女	水曜日	16時30分~18時
		金曜日	17時30分~19時
	Bチーム 女	火曜日	16時30分~18時
14才~17才 男	金曜日	15時30分~17時	
陸 上 競 技	6才~8才 女	月曜日	17時 ~18時
		木曜日	17時 ~18時
	8才~ 女	月曜日	18時 ~19時30分
		木曜日	18時 ~19時30分
バレーボール	13才~17才 男, 女	木曜日	15時30分~17時

13) スポーツクラブの年間経費

ニーダーホルムスポーツクラブの年間経費は、収支計算書（1993年度）の通りである。

1993年度の収入の部は、255,409マルク（約16,600,000円）、支出の部は、255,791マルク（約16,626,000円）で差引き残高は、-382マルク（約-24,900円）でわずかながら赤字決算であった。このため、1994年7月より会費の値上

げが決定され、値上げ分で赤字を補填する計画である。

収入の部をみると、会費が1,113万8千円で収入全体の67.1%を占めている。次いで銀行利息が273万円で2番目に多い収入となっている。このことは、ドイツの銀行利息を仮に年利6%としても約4,550万円の基本財産、若くは、積立金（体育館売却益）があることを意味してい

表3 収支決算書（1993年度）

収入			支出	
項目	1.マルク=65円		項目	マルク ペニツヒ
会費収入	マルク ペニツヒ 171,359:00		指導者報酬(専任及び非常勤)	125,386:00
ドイツスポーツ連盟補助金	11,950:00		指導者報酬税金	5,800:00
銀行利息	42,000:00		税込合計	131,186:42
創立百周年補助金	20,000:00		物件費	
積立金解除	10,000:00		トレーニング機器	3,450:00
収入合計	255,409:00		ドイツスポーツ連盟ヘスポーツ基金	6,980:80
			指導者講習会派遣費	2,375:40
			新聞代	2,188:33
			管理消耗品	4,552:65
			銀行手数料	850:00
			自動車保険	2,708:80
			自動車修理・ガソリン	8,619:24
			倉庫・車庫代	5,066:19
			創立100年祭	25,000:00
			物件費合計	67,791:41
			各部出費	
			バドミントン	8,474:00
			ハンドボール	23,485:00
			柔道	4,042:87
			柔術	996:91
			陸上競技	1,621:00
			ブルルボール	766:50
			水泳	10,945:21
			スキー	5,918:60
			バレーボール	1,673:28
			体操	4,686:82
			ハイキング	204:90
			各部合計	62,814:09
			総合計	255,791:92

	マルク	1マルク=65円で日本円に換算
収入	255,409:00	16,601,585円
支出	255,791:92	16,626,474円
残高	-382:92	-24,889円

1994年7月以降より会費を値上げすることで赤字は補填できる。

各部出費でハンドボールの分配が多いのは全国の2部リーグで活躍しているためである。

ドイツスポーツクラブの現状（1994年）

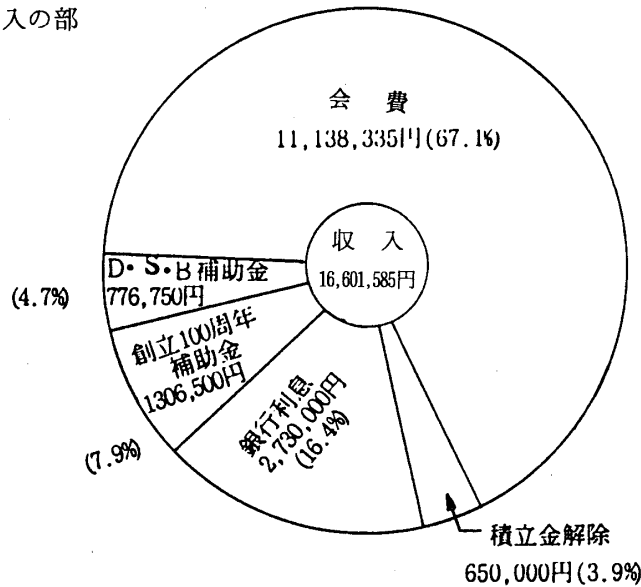
る。補助金収入では、クラブ創立100周年として約130万円（7.9%）（自治体からの補助金）、ドイツスポーツ連盟から約78万円（4.7%）である。したがって、このクラブの年間収入の87.4%は自己財源であり、残りの12.6%が補助金であることが分かる。このことは、ドイツにおけるスポーツクラブの自主・自律の精神を具体的に表わしたものといえよう。すなわち、他からの補助金や援助金が収入の3分の1以上を占めるクラブは、その補助金や援助金がなくなるとクラブの存在が危くなるとともに、その収

入を頼ればクラブの自主・自律を犯される恐れもでてくるのである。

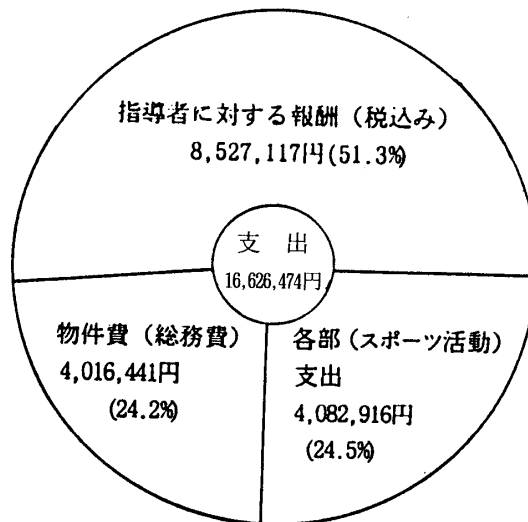
支出の部をみると、指導者に対する報酬（税込み）が853万円で支出全体の51.3%を占めて最も多い。次いで各部（スポーツ活動）支出が408万円（24.5%）、物件費（日本では総務費）402万（24.2%）となっている。なお公共スポーツ施設を無料で使用していることから、村は、クラブに対し、施設の貸与で大きな援助をしていることが分かる。

表4 ニーダーホルムスポーツクラブ決算図（1993年度）

1、収入の部



2、支出の部





おわりに

ドイツのスポーツクラブは地域社会の住民によって自発的に形成されたひとつの Gemeinschaft (共同社会) である。

クラブの規模は30~40名の単一種目からなる小規模クラブから会員数5000名以上の多種目を抱える大規模なクラブまで千差万別である。これら全てのクラブが州スポーツ連盟に加盟し、合わせてドイツスポーツ連盟に加盟登録する仕組みになっている。

登録クラブの特典は、① 地方自治体及びドイツスポーツ連盟より毎年補助金が得られる。② クラブ開催の競技会、行事、バザー等の収益、あるいはクラブが持つレストランの売り上げ収益についての税制上の優遇措置、免除が得られる。

スポーツクラブ施設の利用は90%のクラブが地域公共スポーツ施設及び学校のスポーツ施設を利用している。学校のスポーツ施設は13時以降22時30分頃まで地域住民のために開放される。

競技会は学校対抗としてではなく、クラブ対抗の試合になる。この点が、我が国との大きな違いである。

ドイツのスポーツクラブ制度が既に180年の歴史を持っていることは前述してあるが、クラブ創設の立役者ヤーンは身体活動を奨励するにあたり、4つのスローガンを作り啓蒙活動を行なった。

・ Frisch (生き生きと)

- ・ Fromm (信仰深く)
- ・ Fröhlich (快活に)
- ・ Frei (自由に)

現在ドイツのスポーツクラブのシンボルマークがこの4つの言葉の頭文字を象ったもので(図参照)各クラブの旗の記章として、あるいは体育館の入り口に張り付けられている。Jahnの思想がスポーツクラブを通して脈々と受け継がれているのがこの事でも分かる。

ドイツのスポーツクラブが今日まで長い歴史を経て発展してきた最大の理由は、地域住民のボランティアによるクラブへの深い愛情に他ならない。又これを根底からしっかりと支えてきた国、地方自治体、ドイツスポーツ連盟の存在も忘れてはならない。行政に携わるもの、政治家自身もその多くはクラブ出身者であり、スポーツに対して深い理解と愛情を持っている。それはヘルムート・コール首相が、かつて演説の中で「スポーツクラブは社会の中で非常に重要な役割を果たしている」と発言していたことでも十分理解できる。

引用、参考文献

- (1) スポーツナショナリズム 山本徳朗
- (2) 世界の国民スポーツ 増田靖弘
- (3) スポーツ科学辞典 岸野雄三 他
- (4) Rahmen-Richtlinien für die Ausbildung im Bereich des Deutschen Sportbundes
- (5) Turn Verein Nieder-Olm 1893 ~ 1993

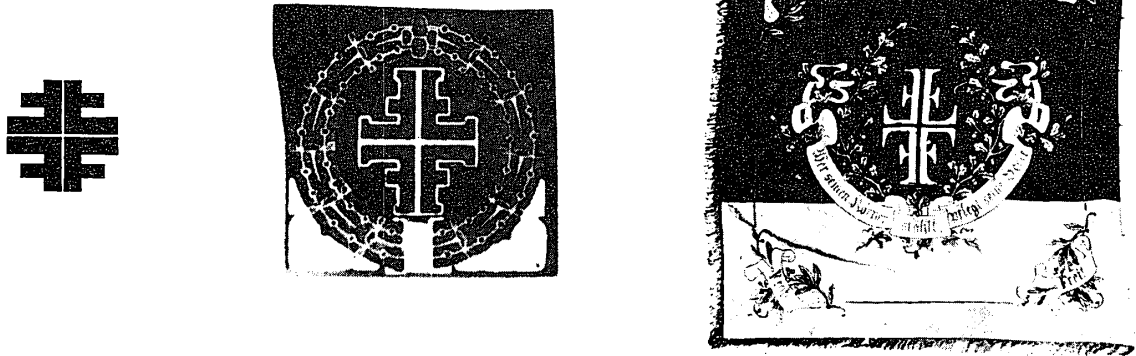


図6 4Fのシンボルマーク  
(各クラブごとにデザインが異なる)